

令和7年度
すくわくプログラム活動報告書
(実施対象：4・5歳児クラス)

モニカ人形町園

M  nica

テーマ

木の可能性

設定理由

公園で長い枝や太い枝等、見つけた枝の特徴を嬉しそうに保育者に伝えたり、集めて楽しんだりする姿があった。保育室でも枝を使って構成遊びや製作遊びができるようコーナーを設定したことで、枝を使った探究にも興味を持って参加する姿があった。

対象クラス

4・5歳児クラス・10名

活動のねらい

活動を通して木への興味を高め、親しみを持つ。

問い

「どう見える」
「どう感じた」
「どうして違うのかな」
「どうしてこう見えるの」

活動期間

令和7年6月～8月

活動回数

計6回

手を広げて
もっと大きい木があった!

涼しいよね

気持ちいい!

木も生きてるの?

今まで木や木材を使った遊びをしてきました。
改めて「木」について知っていることを
子ども達に聞いてみます。

ツツツツ
の木がある
穴あき
木がある

木って
何食ってるの?

お水?
土?



「木も生きてる」
という声から。
息をしているの?という
疑問が浮かび、
実験してみることに...

ひー!!



袋が白くなった!
中に水がついてるよ
息の中に水があるの?

みてー!!
木に水が
ついてるよ!

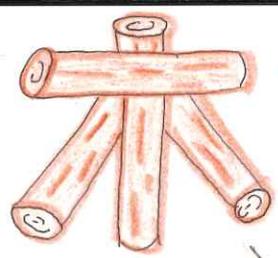
ていうことは、木も息をしているんだ!!

今回の実験で出た結果に
驚きと隠せぬ子ども達。
それは驚きや気づき、疑問に
出会う瞬間一コマ一コマ大切に
していきたいです。



6月2日～6日
いなか、らいおん組
松田

木を使った構成遊び



貸してー。いいー！
一緒に走ろう！
いいー！

一緒に作ろう！

いいー！

お家ねー！

ここはベッドね！



保 何作ってるの？

んー。まだ分からない！

だんだん船に見えてきた！

構成遊びをする中で、
木材のちょっとした傾斜や
微妙な大きさの違いに気が付き、
立体的に組み立てる難しさや
面白さを感じています。

「ほんか木の匂いしない？」

「いい匂い！」と、

遊びの中で

木の香りを感じている子も

いました。

その後も木材を使った構成遊びを
毎日楽しんでます。
今度も木を使った様々な遊びを
通して、木への関心や気が付き
深めていきます。



これも木だよ！

～ “木から出来ている物” はどんなものがあるかな？～

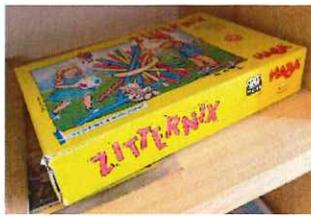
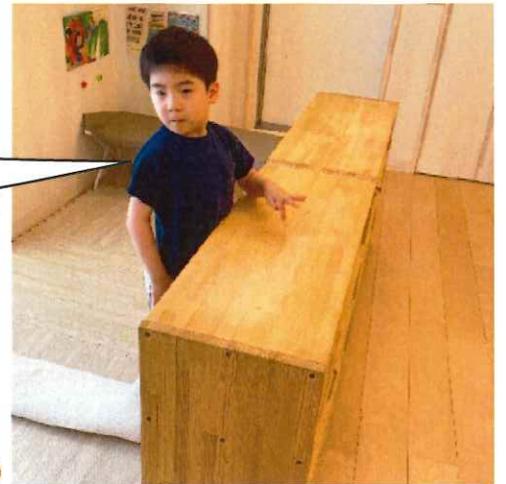


紙を入れている箱も！

見て！この棚も木だよ！

他にもこんなものを見つけたよ。

これは木からできたもの？



木からできている物が身近に沢山あったことに気がきました。中には木で作られていない物もありましたが、大人が答えを言うてしまうのではなく、「じゃあ調べてみよう！」と新たな発見や興味に繋がるような声掛けをしています。

外で見かける木がどうやって身近な紙や棚などになっているのか、ずっと疑問だった子ども達。だからこそ皆真剣な表情で動画を見ていました。紙の作られ方が分かると、「じゃあ色のついた紙は絵の具と木を混ぜてるのかな？」とさらに疑問が広がっています。子ども達の興味や疑問を持った瞬間を大切にしながら探求を進めていきます。

子どもの疑問から

『木が紙になるまでの動画』

『木が木材に加工される動画』を見ました。

白くなった！

どんどん四角になってる。



活動内容

《6月》最初に木のビンゴゲームを入れることで楽しみながら木の模様や幹の太さの違いに気付いていた。公園で見つけた枝を園に持ち帰りマイクロスコープで観察すると、枝のキズや色の違いに注目していた。木への興味が高まったところで保育室に木材のや枝を使った構成遊びコーナーを設けた。木材の長さや形のわずかな違いに気付き、バランスを考えながら作ることを楽しんでいた。木材の重さ比べでは、計量器を使って重さを視覚化することで見た目の大きさと重さが比例しないことに気付いた。

《7月》子ども達が木をどのように考えているのかサークルタイムで話す機会を設けた。そこで木が活着しているのかという問いが生まれ、保育室にある観葉植物に透明のビニール袋を被せて観察した。結果、子ども達が袋に息を吹きかけた時と同じように植物の袋も曇り、植物が呼吸をしていることに気付いた。他にも、木が紙に加工される動画を見ると子ども自身が「これも木だよ」と保育室の家具や玩具から木を見つけようとする姿が見られた。

《8月》公園でふろった枝を使って物語を考えた。グループごとに違う物語が生まれ、枝や木の皮を様々な物や人に見立ててイメージ豊かに楽しんでいた。皆でひとつの木を作る際には、木からできている素材のみを使用し、根っこや幹をどう表現したらよいか考え、工夫する姿が見られた。

〈環境構成〉

子どもが気付いたことを保育者や友達と伝え合ったり一緒に考えたりできるよう3グループに分けて実施した。木材と照明のみ等、シンプルな環境を作った。また素材は枝、木の削りカス、加工された木材を用意し、素材によって性質が違うことに気付けるようにした。木材や枝を使った構成遊びコーナーを設定し、普段の遊びの中からも木を取り入れることで木に親しみを感じられるようにした。

使用物

木のビンゴの紙 | マイクロスコープ | 段ボール | 画用紙 | 計量器 | コルク | 加工された木材
削りかす | 木の図鑑 | 模造紙 | 水性ペン | パソコン | プロジェクター | 透明の袋 | パキラ
枝 | 葉 | 木の皮 | テーブル | 椅子

テーマ：木の可能性

全体の振り返り

木のビンゴから始めたことで楽しみながら木の興味を高めることができた。子ども達の様子に応じて木材を使った構成遊びを設定したことで、遊びの中で木の香りや温もりを感じ、親しみに繋がった。グループごとの活動が多かった為、それぞれのグループで気付いたことを子ども会議にて共有する場を設けた。職員間では声掛けや環境についての反省を行い、次回の探究に活かせるようにした。探究後も内容を保護者と子どもで振り返れるようドキュメンテーションを掲示した。活動中の問いかけはタイミングによって活動への関心が薄まってしまう場面があった為、子ども達の様子を見ながら問いかけることが大切だと気づいた。

終



株式会社モニカ

〒105-0004
東京都港区新橋1-9-5 KDX新橋駅前ビル 3F
TEL:03-6661-2466
FAX:03-6661-2467

モニカ人形町園

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町3-4-8
アイビーコート日本橋人形町
TEL:03-6264-9244
FAX:03-6264-9245